

広域通信制・単位制高等学校・男女共学

# 精華学園高等学校

SEIKA GAKUEN HIGH SCHOOL Seika Gakuen High School

精華：そのものの本質をなす、最もすぐれている点。真髓。美しくて華やかなこと。光彩。

平成21年

3月24日：認可

7月1日：開校

9月7日：28箇所の学習センター認可

## 設立趣意書

近年、携帯電話やインターネットなどによる情報化社会の急速な進展と氾濫、さらに少子高齢化、核家族化が進むなかで、人間関係が希薄化し、また誤った自由・平等・個人主義が自己中心的な社会を生み出し、それに伴う社会規範と道徳心の低下が、子どもたちの健全な成長に大きな影響を与えています。

人間関係の希薄化、社会参加と自然体験の不足は、子どもたちに対人関係からくる日常的なストレスと不安を与え、自ら考え行動する力の育成を阻害し、その結果、将来の夢や目標を見出すことができず悩み苦しんでいる子どもたちが増えています。

小中学校では不登校や引きこもり、またアスペルガー症候群、LDなどの発達障害をかかえる児童生徒が増え、その対応に苦慮し、高等学校では教職員の努力にもかかわらず、山口県でも毎年700名余りが中途退学をしています。

素行不良などによる中途退学も多いようですが、人と人との交わりが苦手な、集団のなかに入れず中途退学を余儀なくされている子どももいます。そんな子どもたちの多くが、その後「引きこもり」「ニート」となり、社会問題となっています。

社会環境の急激な変化がもたらした負の産物ともいえます。

通っている高等学校が自分に合わなくなってしまった子ども。

ライフスタイルが多様化し、自分流の生き方を求め模索している子ども。

高等学校を中途退学したものの、新しい進路や生きがいを見出せずに苦しんでいる子ども。

対人関係のストレスから集団に入れず、少人数でなければ、学習指導すら受けられない子ども。

「学び方」も一つではなく、多様な対応が求められています。

しかし、そんな子どもたちに対応できる教育機関は少なく、特に高等学校を中途退学した子どもに対する行政の施策はほとんどなく、民間による支援に支えられているのが実情であり、退学した後に、どのような進路があるのか、非常に悲観的にならざるを得ないのが現実です。

なぜならば、数年前より理容・美容・調理師等の免許取得のための国家試験の受験資格が高等学校卒業を条件とするようになったため、現代社会で生活する上で高等学校卒業が必要不可欠の条件となりつつあるからです。そのような状況下で、一度、高等学校を挫折した生徒にとって、通信制高等学校が最後の砦となっています。

また、文部科学省が目指す新しい教育「生きる力」を生徒一人ひとりが身に付けるという内容から見ても、多様な目的を持つ生徒のニーズに柔軟に対応できる、生徒の対場に立った、新しい教育システムを兼ね備えた私立通信制高等学校の登場が切望されています。

精華学園高等学校は広域通信制・単位制高等学校として男女が共に学び、生徒の学ぶ意欲に応え、学習面、生活面、精神面での支援を行い、「登校促進型」「大学進学型」「自分発見型」「才能開発型」「個別指導型」など様々なタイプの授業形式を用意し、個々にあったスタイルで自己実

現を支援し、さらに社会参加の機会として、キャンプや登山、ヨット、カヌー、耐久徒歩、レクリエーション活動、福祉ボランティアなど体験活動を積極的に実施します。

子どもの立場に立ち、温かく甘えのない指導を貫き、生きる力を育み、未来を自ら切り開く自立心と心豊かな冒険心にあふれる逞しい精神を持ち、意欲的に社会貢献を目指す日本の未来を担う有為な青少年を育てることを目的として開校します。

## 学呈

「花のほほえみ 根のいのり」

社会教育家 中山靖雄

「夢」「ファイト」「誠意」 (この3つを大切にすれば、夢は叶う。)

作家 故・森村桂

「夢を夢のままにせず、その実現に向かって努力することが生きること」

「いつも笑顔で明るい心、思い込んだらトコトンやる」 理事長 岡村精二

## 旧：吉部小学校

精華学園高等学校 位置図・配置図

